



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

津久井班結成！ 活動を開始しました！

城山、津久井、相模湖、藤野の4町が相模原市に合併して最初の津久井地区文化財パトロールが、このたび結成された津久井班によって行われました。

これまでは2名のメンバーが北部班に所属してパトロールや文化財調査・普及活動を行っていましたが、今年から城山・津久井地域の新メンバーを加え8名となり、新しく活動を開始しました。

津久井班の最初の活動は、2月25日の津久井地域指定・登録文化財の定期パトロールでした。参加者は女性メンバー2名を含む8名全員が集まりました。



善勝寺のコウヤマキ

当日の天候は晴れ、気温はおよそ14～5℃で微風。絶好の調査日和でした。先輩班員の案内で6ヶ所の指定・登録文化財を訪れ、目視での損傷・変化の確認とその記録、対象文化財の写

目次

- ① 津久井班結成！活動を開始しました！
- ② 原当麻駅～ハテナ館ガイドマップ完成！
・古道・地名班パート3「東海道を行く」
- ③ 中村家住宅主屋の文化財調査に参加して
・念仏講の鉦に『渋谷庄上相原』の文字
- ④ 文化財マップ紹介～田名地区～
・文化財保護課からのお知らせ

真撮影などを行いました。

班員は専門知識のある方から全くの素人まで様々です。パトロールしながらの先輩班員からの説明・解説、参加班員からも補足説明があったりと、なかなか充実したパトロールとなりました。新規班員にとって日頃訪れることのなかった文化財もあり、地域の歴史にも触れる非常に有意義な機会となりました。



寸沢嵐石器時代遺跡

津久井地区には一般に知られていない文化財がまだ多くあるのではないかとされています。また、来年度からは藤野方面へと活動を広げる予定ですが、我々の活動が地区の文化財保全・調査に役立つものと意を強くした1日でした。
(津久井班 久保)

原当麻駅～旧石器ハテナ館ガイドマップ「2万年前！ロマンを訪ねて」完成！

田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会（ボランティアガイド実行委員会）では、ガイド活動だけでなく普及活動も担っていくことになり、その一つとしてガイドマップを作って頒布することになりました。

そこで会ではマップ作りのチームを編成し取り組んできました。

作成にあたっては“見やすく”、“わかりやすく”、“楽しい”情報が盛り込まれていて、そしてマップの体裁もちょっと洒落ていて、“人目を引く”そんなものができればという思いで始めました。

基本コンセプトとして電車利用の来訪者を想定し、原当麻駅を起点にして徒歩アクセスの最短コースのほか、途中の景観や史跡も楽しめる三つのコースを示しました。

車での来訪者にもスムーズにアクセスできるように、信号や目印を入れました。とりわけ案内施設周辺を拡大図にし、ハテナ館駐車場へスムーズに進んでもらえるよう誘導矢印を入れました。

できればはなかなかのものと自己評価していますが、これを生かせるよう効果的な頒布を考えていきます。

4月17日（土）には、このマップの完成記念探訪を行いますので、希望者は9:30に原当麻駅にご集合ください。



マップの表紙



(田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 島山)

古道・地名班パート3「東海道を行く」－毎月第2火曜日実施

昨年7月7日の七夕の日にパート3の「東海道を行く」が、東京の日本橋からスタートしました。橋上の真中に「日本国道路元標」があり、日本の道路の起点となっています。また、近辺には関東大震災まで江戸及び東京の台所として活気あった日本橋魚河岸の碑があります。それから、江戸秤座発祥の地、安藤広重住居跡、旧京橋跡、江戸歌舞伎発祥の地、銀座発祥の地などを見学しました。新橋では汽笛一声で有名な鉄道創設起点跡、1654年松平綱重が海を埋め立てて別邸を造ったことが始まりで、その後代々の将軍家の別邸として使用され、明治に至り皇室の離宮となった特別史跡の浜離宮恩賜庭園、それに旧芝離宮恩賜庭園等の都内の名勝地を、それから上野の寛永寺と並んで徳川家の菩提寺として知られている増上寺と国の重要文化財である三解脱門等を見学。12月には泉岳寺で播州赤穂

浪士の四十七士の墓、品川駅では明治5（1872）年5月品川～横浜間の仮開業記念の品川駅創業記念碑。品川宿では本陣跡や寺社を探索、3月2日には文化財調査・普及員第4期生も加わり、北品川で集合し、古く源頼朝の勧請したもので近世に入り、徳川家ゆかりの神社となった品川神社、寛永14（1637）年徳川家光が建て、沢庵和尚を住職に招いた東海寺等を見学しました。古道・地名班は今12名となりましたがマイペースでゆったりと江戸時代の文化を堪能しています。



品川神社にて

(古道班：光廣)

～中村家住宅主屋の文化財調査に参加して～

南部班の文化財パトロールで何度か訪れたことがある中村家。素人の私にできることがあるかしらと思いながら応募しました。

屋内に入るのは初めて。重そうな梁を支える40cmもある柱。細かな細工の建具。落ち着いた様な、懐かしい様な雰囲気。150年以上もこの家でどんな暮らしが営まれてきたのだろう。長い生活の跡を感じずるたくさんのものが残され、引っ越し屋か、片づけ屋の気分。

だが、文書棚の虫くいだらけの文書、私には読み取ることもできないものを目の前にすると、博物館等で展示されているものとは全く違う「生」古文書だと感動。また、現在の主屋の前の建物のもと思われる嘉永5年に書かれた家相図が発見されたことも大きな成果だとか。その場に居合わせたことにもまた感動。今回の資料が整理され文書が解読されたら、どんなこ

とが分かるのだろう。

中村家の人たち、勝坂の人々はどんな日々を過ごしていたのだろうと興味が尽きません。4月に公開されたら、建物はもちろん、そんな人々の思いも感じ取れるように見学したいと思うのです。



中村家での整理作業

(南部班 阿部)

～ 念仏講の鉦に『渋谷庄上相原』の文字 ～

『さねさし』第12号で『相原に今でも残る秋葉講と念仏講』を紹介しました。今回、12号で触れなかった念仏講の『鉦』について少し詳しく記します。

念仏講の鉦は、お念仏を唱和するときにリーダーがリズムをとるためのもので、相原のこの鉦は、直径＝約30cm、高さ＝約15cm、三本脚で吊り紐も付いています。(写真) 鉦のおもて面は外周とその内側に二条の突起模様があるだけですが、うら面の幅約3cmほどの縁の部分には当時の講員と思われる『市郎兵衛』『喜三郎』『金兵衛』など20人の名前が刻まれています。

また、この鉦の側面には、製造年月日と製作者



または製造依頼者の在所および名前と思われる文字が読み取れます。刻まれている『天和四年子二月日』は、今から326年も前であることに加えて、この年は2月21日に改元により『貞享』となったので、改元前の20日間に打刻されたものだと分かります。

一方、在所名および名前と思われる文字は、縦書きに『相州高座郡渋谷庄上相原村浄心』とあり、『庄』の字は『谷』と『上』の間の右脇



に刻まれています。(写真)

江戸初期のこの時代の在所名として、『渋谷庄上相原村』と書かれるのは極めて珍しいことかと思えます。(北部班・橋本)

田名地区文化財めぐりマップ～田名は文化財の宝庫です～

文化財の宝庫などと言うと他の地区からお叱りを受けそうですが、2万年前の田名向原遺跡を始め、縄文、古墳、奈良・平安から近世まで多数の文化財があります。今回は気軽に散策できる文化財めぐりのマップを紹介します。

まず、田名の地名から紹介しましょう。県道54号と48号の交点で田名の中心点「上田名」交差点は「ウエダナ」と読み、上田名バス停もあります。「陽原＝ミナバラ」、「望地＝モウチ」、「久所＝グゾ」、半在家は素直に

「ハンザイケ」です。また、滝という地名がありますが、ここに川は無く、湧水が多く滝になって流れ出ていた事に由来するようです。田名は段丘の街で、緑豊かな崖線と各所に湧水が見られます。

上田名バス停で下車し、前進すると市立博物館に展示してある「奈良三彩小壺」が出土した田名坂上遺跡脇に出ます。先に進み「宗祐寺」境内を横切り、①「山王坂徳本念仏塔」。坂を下ると②「滝の渡し」跡(さねさし14号で紹介)。さらに先に進み新堀用水があり、

③「烏山用水の石積み」の先は堀に設けられた遊歩道。その先高田橋のたもとに④「久所の渡し」跡。河川敷を下がっていくと釣り場の水たまりがあり、崖の中腹に用水堀の「万平穴」、その先に望地弁天があり、社には⑤「木造弁才天坐像」を安置(元旦と4月第1日曜日のみご開帳)。さらに急坂を登り突き当たり⑥「南光寺の徳本念仏塔」。さらに北上すると⑦「烏山領制札場跡」があります。

田名向原遺跡公園・旧石器ハテナ館は南光寺から県道48号を南下し、2.2キロ先にあります。他にも田名八幡宮、岩切場跡、多数の石造物など、見どころ満載です。ぜひおいでください。

(西部班 鳴原)



* 次号以降も各地区の文化財マップを紹介いたします。ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

文化財保護課からのお知らせ

史跡勝坂遺跡公園・旧中村家住宅のオープン！

縄文時代中期(約5000年前)の集落跡の史跡勝坂遺跡公園が4月1日より公開されます。公園は、大自然の中の縄文時代を再現し、竪穴住居2棟、敷石住居1箇所等が復元・公開されております。また、同じ勝坂の幕末の和洋折衷住宅中村家住宅も4月1日より公開されますので、ぜひお越しください。



勝坂の竪穴住居

* 文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは次の手順で閲覧できます。

相模原市ホームページ → 観光・文化(一覧を表示) → 文化財・史跡 → 文化財調査・普及員

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371